



令和4年度

多北高 FRH 通信 第25号

令和4年12月22日(木)
多北高 FRH 推進委員会
探究推進部

TGP講座 法曹への道

12月13日(火)に、多治見北の卒業生先輩である籠橋美樹さんをお招きして、座談会を開きました。籠橋さんは、名古屋大学の法科大学院に在学後、第72期司法修習生となられ、現在は名古屋で弁護士事務所に所属して活躍されています。籠橋さんには毎年講座をお願いしていますが、新たな判例を題材にしながら、工夫を凝らして参加生徒がじっくりと考えられるようにしていただいています。さらには「三苦の1ミリ」も取り上げ、こんなところにも、法律的に論ずる観点がいくつもあるのだと、紹介されました。

(3年生対象座談会 15:50~16:50 1・2年生対象講演会 17:00~18:00)

講座のようす



3年生対象座談会のようす



1・2年生対象座談会のようす



参加生徒の感想

○弁護士への道は簡単ではなく、高校生のうちから進んで勉強することが大切だと感じた。精神面で支えていくこともあるから、普段から人との関わりでしっかり話を聞いたり、思いを話せるようにしたい。

○とても有意義なお話が聞けた。法学部に進学するかどうかは分からないが、弁護士に限らず、困っている人を法を駆使して助けるというのは、難しくもあるけどその分、社会から本当に必要とされる技術だと思う。その素晴らしさを再認識できた。

○自分は理系選択だが、以前から弁護士の仕事に興味があったので参加した。理系の弁護士の活躍の場もあるようで、理系の学問を学んでも、その知識や学びは生かせそうだ。今は正直弁護士になるかなんてわからないし、他の職業にも興味があるけれど、今回、将来の選択肢を広げ、深められたという点では、非常に有意義であった。

○高校時代のことから弁護士になってからのことまで、細かいところまで話を聞くことができよかったです。司法試験だけでなく、考試も相当大変だろうなと思いました。1日8～9時間を5日間という試験を、受け続けられるような集中力を、高校生のうちに身につけておきたいなと思いました。